

イシガレイは成長して外海へ

■成長したイシガレイ

今回の調査では水門付近（七北田川側 Fig.1）で2匹のイシガレイを採集した。全長は8.5cmと9.5cm（Fig.2）で十分に成長しており、いつ外海へ移動してもおかしくない大きさである。蒲生干潟で成長したイシガレイは外海へ移動したものである。

なお、潟湖内では今回の調査でもイシガレイを採集できなかった。すでに外海へ移動した可能性もあるが、今年の潟湖内での採集数は少なかった。これまで導流堤の工事により潟湖と七北田川の間を通水は制限されていた。通水が弱いため、砂は入り込めず泥が堆積した可能性が考えられる。現在の潟湖内は泥地が多く、イシガレイの好む環境ではない。この春の工事終了とそれに伴う通水の改善により砂が流入し、震災前の姿に戻る可能性に期待したい。



(Fig.1 イシガレイ 採集場所)



(Fig.2 イシガレイ 全長9.5cm)

■多くのモクズガニ

蒲生干潟には多くのモクズガニが集まっていた。繁殖のため七北田川を下ってきたものと思われる。特に河口域では数多く見られた。中には、鋏脚の毛が失われた個体も存在した。



(Fig.3 モクズガニ 雄)



(Fig.4 モクズガニ 雌)



(Fig.5 鋏脚の毛を失ったモクズガニ)